

## (武豊町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 4校、中学校 2校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人	
		地域学校協働活動推進員	4人	
	状況	統括コーディネーター	1人	
		地域コーディネーター	0人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 2校	中 0校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 2校	中 0校	



### (活動の実際)

#### <緑丘小学校地域学校協働本部>

昨年度導入の衣浦小学校をモデル校とし、町内2校目の導入となった。地域学校協働活動推進員（以下「推進員」）を各校に複数配置することで、活動の活性化と負担感の軽減を図った。新興住宅地区が多く、関係団体が少ない状況の中、事業の検討やボランティアの募集方法などを、模索し検証する1年となった。

#### (活動内容)

##### 1 地域学校協働本部の立ち上げ

- ・めざす児童像や活動方針の共有（校長・学校運営協議会・教育委員会との連携）
- ・活動のための校内環境整備（CS室の整備、パソコン等の設置、学校担当者との連携）
- ・ボランティア募集と活動広報の体制づくり（募集方法の検証、CSだよりの発行、地域との連携）

##### 2 学習支援・体験活動の支援

- ・授業の支援（習字・書初め指導、地域講師等）
- ・体験活動の支援（イモ掘り、校外学習引率等）

#### (活動で意識していること)

- ・地域学校協働活動の意義や活動内容についての共通認識をもてるように、職員や推進員への研修を行ったり、地域の方や関係機関と対話できる機会を設定したりしている。
- ・ボランティアの募集にあたっては、「できる人が できる時に できる事を」を重視している。
- ・今の子供が20年後にボランティアとして活躍してくれるように、地域の方と直接関わり、思いが伝わるような活動を目指している。

### (◎成果と●課題)

- ◎推進員が定期的に在校（週1日以上）しているため、職員が日常的な活動支援についても相談できるようになり、子供の豊かな学びと、職員（特に教頭）の負担軽減につながっている。
- ◎コミュニティ・スクール（CS）だよりを月1回程度、定期的に発行することができた。地域にも広報することで、活動に対する地域の理解が徐々に進んできている。
- 実践を継続させ充実させるために、地域学校協働活動を取り入れるとよい活動を職員とともに再検討し、各学年の年間計画にも位置づけたい。

### (関係者の声)

- ・施設の畑で、施設利用の方と児童と一緒に収穫作業を行う姿が見られてうれしかった。（地域の方）
- ・子供と一緒に活動できて楽しかったし、授業参観とは違う子供たちの日常の様子が分かってよかった。また、先生方との距離も少し縮まった気がした。（保護者）
- ・今年から道具を使ってイモを掘ることにしたが、多くのボランティアさんに支えられ安全に楽しく体験ができた。推進員さんのおかげで、物品購入や事前打合せなどがスムーズにでき、ありがたかった。（教員）
- ・地域の方の力を積極的に活用することで、今までやってきた活動がより詳しく専門的にできたり、子供たちに新しいことを体験させられたりするのではないかと思った。（教員）